

法人第8期 会長就任にあたって



若尾 真治*

このたび、日本太陽エネルギー学会の法人第8期会長を務めることとなりました。会員の皆様とともに、伝統ある本学会のさらなる発展のために尽力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

日本太陽エネルギー学会は、来年2025年に設立50周年を迎える歴史を持ち、これまで、太陽エネルギーをはじめ風力、水力、バイオマスなど様々な再生可能エネルギーを対象として、電気・材料・化学・建築・運輸・気象などの多様な分野で学術・教育・啓発活動を行ってきました。持続可能な社会の構築には、様々な視点での技術開発とそれらの融合が必須であり、広範な技術分野をカバーする本学会が担うべき役割は、設立100周年に向けた次の50年において益々大きくなっていくと考えています。

これまで私たちは、化石エネルギーを大量消費しながら便利な生活を築き上げてきました。一方で、化石エネルギーの大量消費の代償として気候変動の懸念が指摘されてきましたが、最近、これまでにない気温上昇や大雨、強風などによる被害が頻繁に報道されるようになり、いよいよ歪が顕在化してきたと実感しています。また、少子高齢化、人手不足、働き方改革、地政学的リスク、カーボンニュートラルなどの昨今の様々な世界的課題に向き合うとき、必ずと言ってよいほどエネルギー問題もどこかで絡み合い、課題をより複雑にしています。多くの課題の解決に向けた手段の一つとして、再生可能エネルギーの活用には今後さらに大きな期待が寄せられることは確実です。

日本太陽エネルギー学会がその期待に応えるべく、特に次のような点に注力したいと思います。日本太陽エネルギー学会定款には、「国内外の研究者・研究団体との交流を図ることを目的とし、併せて科学技術の振興と研究成果の普及を図る」と明確に使命が記されています。社会活動の停滞を強いたコロナ禍を乗り越えた今、この目的をあらためて再認識し、学会活動のさらなる活性化に取り組みたいと思います。その中心となるのは、やはり、毎年秋に開催の研究発表会や年6回発行の学会誌「Journal of

Japan Solar Energy Society」の一層の充実です。再生可能エネルギーに関連する多種多様な分野をカバーしていることが本学会の最大の特長であり、会員の皆様が研究発表会や学会誌を通じて各々の専門技術を発展させることができるよう、企画・運営を行ってまいります。次代の再生可能エネルギー開発の担い手である学生をはじめ、広く再生可能エネルギーに関わる個人・団体に数多く入会いただくことも重要課題です。特に2025年は、設立50周年記念事業を展開し、本学会全体としての記念イベント開催に加え、各部会や各委員会での企画を通じて本学会の魅力を積極的に発信して認知度をあげる絶好の機会です。この機会を活かし、会員増につなげたいと思います。

規模を自由に選べる太陽光発電等をはじめ、再生可能エネルギーは、多くの一般の方々にも設備所有者としてエネルギー供給に関われる選択肢を提供します。限定的な数の方がエネルギー供給に携わり、他の多くの方がそのエネルギーを消費する構造から、多くの方がエネルギー供給に携わり、そして全員で消費する構造への転換が徐々に進み始めています。持続可能な社会に向けたこの変化においては、技術開発だけでは超えられない壁があるように思います。小規模ではあるけれどもエネルギー供給の一翼を担っているとはどういうことか、そのような社会においてエネルギー消費はどうあるべきか、人々の中にこれまでとは異なる意識が求められるはずで、そのような意識の醸成にも、日本太陽エネルギー学会の活動が大きく貢献できると確信しています。

学生、若手研究者からシニアまで、全ての会員の方々の活躍の場として日本太陽エネルギー学会が最大限に機能するように、理事会・事務局一丸となって学会運営を行ってまいります。引き続き、会員の皆様におかれましては、ご支援、ご鞭撻のほど、よろしくようお願い申し上げます。

* 早稲田大学